

たばこ税と秋の空

読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋、いろいろな秋がありますが、税理士業界にとっては「**税制改正の秋**」でもあります。秋になると、来年度の税制改正に関する要望が、各省庁から財務省へ提出されるからです。

インターネットで「**税制改正 要望**」と検索すると、各省庁から財務省へ出された要望書がたくさんヒットします。ざっと眺めてみますと、文部科学省は2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピックに関する「所要の措置」を要望しています。ただし、これに関しては大会関係者のための措置なので、イベントのタイミングに合わせた1回限りのものですが、毎年必ず目にするのが厚生労働省からの要望で、「たばこの消費を抑制するための、たばこ税の引き上げ」です。

年末にかけて議論される18年税制改正では、最近人気が高まっている**加熱式タバコの増税**が挙げられているようです。

加熱式タバコは、商品名で言うとフィリップ・モリスのアイコス、BATのグロー、JTのプルーム・テックがあり、現状での売上は**タバコ全体の約6%**、2219億円だそうです。

3年前までは存在しなかったことを考えるとすごい伸び方です。今後はさらに勢いを増し、5年後には**1兆円を超える**と予想されています。加熱式タバコは分類としては「パイプたばこ」になり、重さを基準に税金が決まります。商品ごとに税金は異なり、アイコス（小売460円）は192.2円、グロー（小売420円）は120円、プルーム・テック（小売460円）は34.3円となっています。通常の紙巻タバコ（小売440円）は244.9円と税金が60%近いだけに約7~42%の加熱式の税率はかなり低いと言えます。

財務省としては普及率が低いうちに税率を上げてしまおうという意図があるようですが、国としては健康への影響が少なく受動喫煙対策にもなると考えられる（※）だけに、普及を促進したい面もあるようです。

毎年のように出るタバコ増税の議論ですが今年改正されるかどうかは今後の加熱式タバコの普及にも大きな影響を与えそうで注目されます。

※臨床データが少ないため、健康への影響が少ないかどうかは証明されていません。



つみたてNISAの口座開設開始

2018年1月から運用される「つみたてNISA」の口座開設申込が10月より開始されました。つみたてNISAとは、現行のNISAより長期の積立・分散投資ができる制度で、現行のNISAが積立型の投資に利用しにくいことを踏まえて導入されました。

つみたてNISAは、非課税期間が現行NISAの4倍、20年と比較的長期です。1年間で利用できる投資金額は40万円ですので、20年間で総額800万円まで可能です。商品の購入方法は、あらかじめ銘柄を定めて定期的に継続して購入する方法に限られるので、決まった日に決まった金額を毎月自動的に買い付けることになり、原則として月々の購入金額は33,333円(≒40万円/12ヵ月)以内になるものと考えられます。なお20年積み立てなくても現行NISAと同じようにいつでも現金化することができ、急な出費にも対応可能です。

すでにNISAを利用されている方の留意点としては、NISA口座の開設は、1人につき1つになりますので、NISA口座内に各年において現行NISAの投資枠か、つみたてNISAの投資枠かのいずれかを設定することになります。つまり、現行NISAとつみたてNISAの投資枠は年ごとの**選択制**となり、同一年において併用した投資は行えないことになります。

もっとも、2018年からつみたてNISAの利用を開始しても、2017年までに現行NISA内で購入した上場株式等については、その非課税で保有できる期間(5年間)が終了するまでは継続して保有することはできます。また、2018年分の投資枠については、つみたてNISAで投資を行い、2019年分の投資枠については現行NISAで投資を行うといったことも可能です。

また、個人が利用できる税制優遇のある投資制度としては、NISAのほかにiDeCo(個人型確定拠出年金)もあります。それぞれの特徴を使い分け、利用されてみてはいかがでしょうか。



税法の難しさ

税理士は常に電卓を持ち歩いています。税金の計算が仕事なので当然と言えば当然なのですが、税金を計算するためには税法を知っておかなければなりません。

ただ、税法というのは非常に難解で、読み解く上での細かなルールがたくさんあります。今回はかなりマニアックなルール、「は」と「が」の違いについて簡単に説明してみたいと思います。

「は」・・・他との共存が**ありうる**

「カープは強い」

阪神も巨人も強いかもしれないけど、少なくとも今のカープが強いチームであることに間違いはない。

「が」・・・他との共存は**ない**

「カープが強い」

強いのはカープだけ。他のチームは弱い。



カープファンにとってはどっちでもうれしいのですが、税法を読み解く上では少し気を付けなければいけないところです。